

# 資料

でんでんむしのかなしみ 作：新美南吉 出：大日本図書

ある日、そのでんでん虫は、大変なことに気づきました

「わたしは今までうっかりしていたけれど、わたしの背中の殻の中には悲しみがいっぱい詰まっているではないか」この悲しみはどうしたらよいのでしょうか。

でんでん虫は、お友達のでんでん虫の所へやってきました。

「わたしはもう、生きていられません」と、そのでんでん虫はお友達に言いました。「何ですか」とお友達のでんでん虫は聞きました。

「わたしは何と言う不幸せなものでしょう。わたしの背中の殻の中には、悲しみがいっぱい詰まっているのです」と、はじめのでんでん虫が話しました。すると、お友達のでんでん虫は言いました。「あなたばかりではありません。わたしの背中にも悲しみはいっぱいです」

それじゃ仕方ないと思って、はじめのでんでん虫は、別のお友達の所へ行きました。するとそのお友達も言いました。「あなたばかりじゃありません。わたしの背中にも悲しみはいっぱいです」

そこで、はじめのでんでん虫は、また別のお友達の所へ行きました。

こうして、お友達を順々に訪ねて行きましたが、どのお友達も、同じことを言うのでありました。

とうとう、はじめのでんでん虫は気づきました。

「悲しみは、誰でも持っているのだ。わたしばかりではないのだ。わたしは、わたしの悲しみをこらえて行かなきゃならない」そして、このでんでん虫はもう、嘆くのをやめたのであります。

## 自分の番 命のバトン

父と母で二人 父と母の両親で四人 そのまた両親で八人 こうしてかぞえてゆくと十代前で千二十四人 二十代前では～？ なんと百万人をこすんです 過去無量の命のバトンを受けついで いまここに 自分の番を生きている それが あなたのいのちです それがわたしの いのちです

みつを

相田みつを「にんげんだもの」文化出版局

「つぶれた水筒をもとに戻さないと、いけないんだよ…」  
愛知県一宮市で昨年十月、トラックにはねられ死亡した同市の小学四年則竹敬太君（当時九歳）の兄は事故直後、両手で何度も水筒を直そうとした。水筒を直せば、弟が助かるかもしれないと

## 目録

## つぶれた水筒

思ったのだろう。事故を目撃した兄の心の傷を物語るエピソードを、父の崇智さん（仮名）が同市内の高校であった交通安全講話で話していた。  
運転手の男は、スマートフォン向けゲーム「ポケモンGO」をしながら運転していた。「事故の加害者にも、

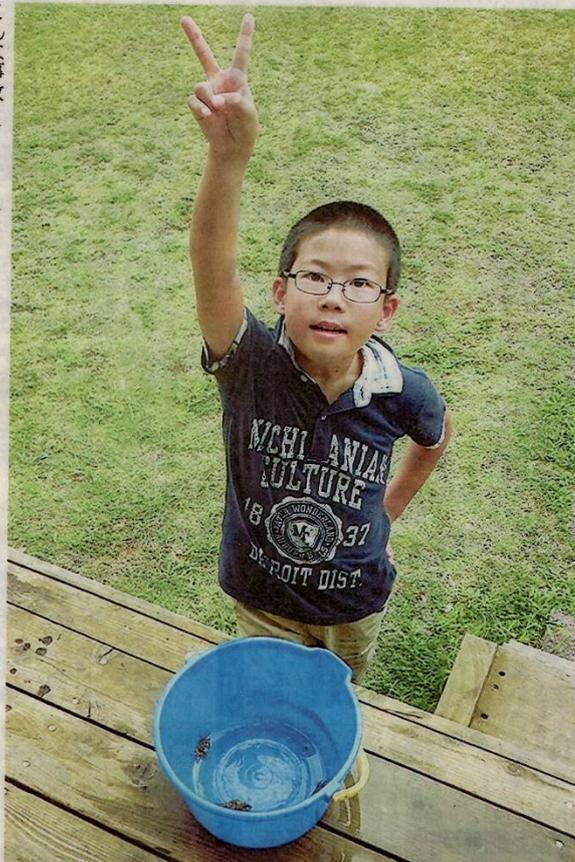
被害者にもならないようにしてほしい」。教員でもある崇智さんは、将来、車の運転免許を取得する生徒たちに思いを伝えている。  
講話には水筒を必ず持って行く。敬太君と兄の痛みを知ってもらうことが、事故防止につながると信じて。  
(鈴木佐歩)

↑ 中日新聞 2017年10月17日夕刊

# 「運転中にポケGO」

## 一宮小4死亡事故容疑者

愛知県一宮市あずらの市道交差点で二十六日夕、横断歩道を渡っていた近くの小学四年則竹敬太君(九)がトラック(一・五ト)にはねられ死亡した事故で、トラックを運転していた同市木曾川町外割田、建設会社員川合信右容疑者(三六)が、一宮署の調べに「ぶつかるまで(則竹君の)存在に気付かなかった」と供述していることが分かった。



川合容疑者は運転中にスマートフォン用ゲーム「ポケモンGO(ゴー)」をしていたと供述していることが既に分かっている。署はゲームに夢中で、スマホを操作しながら運転していた前方不注意が原因とみてい



る。川合容疑者は自動車運転処罰法違反(過失傷害)の疑いで現行犯逮捕され、署は容疑を過失致死に切り

8月に家族でキャンプに行った時、一宮市でトラックにはねられ死亡した。事故は27日夜、愛知県一宮市あずら

替えて調べている。署によると、川合容疑者は「ポケモンGOをして、前を見ていなかった」と供述。当時の時速は制限を十キロ上回る約五十キロで、則竹君をはねるまでブレーキをかけた後、ブレーキ痕はなかった。現場にブレーキ痕はなかった。

また川合容疑者は「仕事で運転するときは車のシガから運転して事故に至る例は各地で相次いでいる。八月二十日に徳島市の事故で、県内の犠牲者

は一人となった。愛知県警によると、国内配信が始まった七月二十二日以降、ポケモンGOに関連した運転中の事故は、死亡事故二件を含めて七件、発生。このうち人身事故は四件で、ゲームに気を取られて前方の車に追突したり、交差点で信号無視をして出合い頭に衝突したりした。残る三件はフェンスなどにぶつかる物損事故。県警は取り締まりを強化しており、ポケモンGOをしながら運転していたとして摘発されたドライバーは八十四人になる。

## 夏の笑顔が遺影に

「なぜ、うちの子がこんな事故に…。無念でしようがない」。二十七日午後、事故現場近くの自宅取材に応じた則竹敬太君の父、崇智さん(四六)は声を絞り出し、涙を流した。

一度、この事故で同じような被害者が出てほしくない。事故の知らせを電話で聞いた崇智さんが病院に駆け付けると、敬太君は既に瞳孔が開き、心停止状態だった。懸命の蘇生措置のいかなく、息を引き取った。

二人兄弟の次男で、来月十四日が十歳の誕生日。携帯ゲームが好きな

## 守られぬルール父親憤り

きで、誕生日プレゼントに新しいソフトをもらうことや、今月末のハロウィーンを楽しみにしていた。家族に愛され、同居する祖父のひきの上で遊ぶことが何よりも好き。祖父は「今は静かに送り出してあげることしかできない」。

近所の女性は「自分から『おはようございます』『行ってきま』と元気よくあいさつしてくる、しっかりした子だった」と涙ながらに話した。

二歳上の六年生の兄とは毎日、一緒に登下校していた。二十六日夕方六人ほどで集団下校中、自宅までわずか二百五十メートルの場所、事故に遭遇。崇智さんによると、敬太君は事故時も兄と一緒に、兄の目の前ではねられた。憔悴しきった兄は「敬太は何でも一番乗りが好き。天国へも一番乗りしたんだ」とつぶやいたという。

## 「周囲への配慮」周知

運営会社コメント

事故を受け、ポケモンGOを日本で運営する米ナイアンティックの広報を担当する「ホフマンジャパン」担当者は「エッセンシャルな方、関係者の皆さまにお悔やみ申し上げます。現実世界の中で遊ぶゲームなので、周囲に配慮した遊び方をしていたら、よく、ガイドラインの周知に努めた」とコメントした。

## 愛知 2人目犠牲

ポケGO事故



また川合容疑者は「仕事で運転するときは車のシガから運転して事故に至る例は各地で相次いでいる。八月二十日に徳島市の事故で、県内の犠牲者